

受講番号 19052 学校名 高知商業高等学校 氏名 大野優

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年国際コミュニケーション科

生徒数 25 名

科目名 OCⅡ

単位数(授業時数) 4 時間

使用教科書名 EXPRESSWAYS II

クラスの様子・特徴

1年次よりホーム担任および教科担当をしてきた。本クラスは、元気のある生徒が多く、行事等は活発に取り組むが、勉強に対する意欲は湧かせにくい。インプットを多くすることを心がけてきたが、定期テストや検定試験の点は芳しくない状況が続いている。

問題の確定

英語は好きではあるが、苦手意識を持っている生徒が多く、50分間授業に集中することができない生徒がいる。

予備調査

A 授業の観察

大変元気なクラスであるが、英語に対する学習意欲を湧かせにくい。50分間授業に集中させることができず、私語が続いたりする。また、黒板をノートに写すことだけを重視する傾向にある。

B 生徒による授業評価

多くの生徒は、授業をよく聴き、ノートをしっかりとったりと授業に積極的に取り組んでるが、授業の内容を十分には理解していないと自己評価している。半数以上の生徒は、教材のレベルも高く、スピードも速いと感じている。

C 学力データ

国際コミュニケーション科の目標である英語検定の合格率(全商英語検定2級30%合格、実用英語検定準2級35%合格、2級7%合格)の達成は、厳しい段階にある。また、定期テストの平均点や学期ごとの課題テストの平均点が50点に満たない場合がある。

リサーチ・クエスト

英語に対して苦手意識の高いクラスで、達成感を感じさせる工夫をすることにより、わかる喜びを実感させ、授業に積極的に参加させるにはどうすればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

語彙指導を計画的に行えば、語彙が増えて、英文を積極的に読もうとするだろう。

- (1) 新出単語リストの活用の見直し
(2) 単熟語テストの範囲や頻度の見直し

実践1

(1) 新出単語の発音練習を丁寧にしたり、反意語や語源など印象に残りやすいものを取り上げて説明した。チャンツを利用し、バリエーションを持たせたり、本文の読みの練習も行った。リピート、オーバーラッピング、シャドーイングへの挑戦も段階的にした。
(2) 単熟語集のテスト範囲を10文ずつ週に1回から、3〜4文ずつ週に3回へ変更した。黒板に範囲の掲示をして意識づけるようにした。

検証1

(1) ペア練習の前に、単語の発音練習を全体で行い、各自で覚える時間を設定することにより、ペアで確認しあうという作業が効果的になった。また、本文を読む練習も始めたことにより、元気のあるクラスの特長を活かすことができた。
(2) 単熟語集「DUO3.0」のテスト範囲を狭くし、頻度を増やすことによって、生徒にとっては「絶対無理な」単熟語テストではなくなり、合格可能なテストとなった。

仮説2

ポイントを絞ったワークシートを作成したら、多くの生徒が問題にチャレンジするだろう。

実践2

生徒の多くが負担を感じていたため、リーディング教材の進度を、レッスンごとからパートごとへ変更した。訳を一緒に載せたり、意味のまとまりで区切ったものも載せたりすることによって、全員が取り組めるようになった。英問英答では、yes/no-questionに慣れさせることから始め、wh-questionへと進めた。黒板を使い、答え方を丁寧に説明した。True or Falseや要約問題も段階的に導入した。

検証2

基本的なことを丁寧に説明したり、段階的に導入することによって、ワークシートに取り組む人数が大幅に増加した。定期テストの平均点は変わらないものの、高得点を取る生徒が増えた。リーディング(筆記)テストで70点以上をとった生徒は1学期の定期テストから、2学期の定期テストで約4倍に増えた。授業で学習したことがそのままテストに反映されるため、授業を聴くという態度にもつながってきた。

仮説3

授業中に教員が英語を使う機会を増やしたり、教室での英語掲示を増やしたりすれば、英語がより身近になり、運用例がわかるだろう。

実践3

ペアになるときの指示や、簡単な説明を英語で行った。また、教室で、日付や1週間の予定、日直名などの黒板掲示を英語で行った。

検証3

簡単な英語を利用したので、生徒が関心を示した。英語が身近になり、英字新聞や英語で書かれた雑誌を読むようになった生徒や、英語で教員に話しかけたりする生徒もできており、多くの生徒にとって英語がより身近になったといえる。

研究の成果

定期テストや検定、模試などの客観的データを見直すことによって、生徒の実態を把握しようと努める視点を持たせたこと、そして、アンケートや生徒の反応に耳を傾けることによって、自分の指導方法を見直し、新しい活動に積極的にチャレンジできたことが大きな成果であった。語彙指導、ワークシートの工夫、日常的な英語運用という3つの実践は、少しずつ生徒の行動の変容につながっていた。以前より多くの生徒が授業に参加するようになり、小テストや定期テストでも高得点をとるようになる生徒も増え、意欲の向上が結果につながってきた。

今後の授業改善の課題

生徒の声に耳を傾けることは、辛い反面喜びにつながる体験であった。生徒の実態に応じた授業作りを念頭に置き試行錯誤することによって、授業へ積極的に参加する生徒が増えた。今後は、生徒につけさせたい力を明確にし、1時間の授業の意味や重みを理解し実践するために3年間を見通した授業計画を立てる必要がある。常に到達目標は高く持ち続け、毎時間達成感を与えられるような自分にしかできない授業実践を模索していきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-844-0267

電子メール

#REF!